

進步



SYDNEY KING 著

ストーリー
SYDNEY KING

イラスト
LUKE MANCINI

編集
CHLOE FRABONI

デザイン
SOPHIE ERB

クリエイティブ・コンサルタント
**JEFF CHAMBERLAIN, MIRANDA MOYER,
NESSKAIN, DION ROGERS**

プロダクション
**BRIANNE MESSINA, CARLOS GARCIA RENTA,
TAKAYUKI SHIMBO, JT TORREA**

翻訳
GEORGE INAGAKI

BILZARD[®]
ENTERTAINMENT

Blizzard.com

© 2026 Blizzard Entertainment, Inc. BlizzardおよびBlizzard Entertainmentのロゴは、米国およびその他の国における Blizzard Entertainment, Inc. の商標または登録商標です。

Published by Blizzard Entertainment.

このストーリーはフィクションです。本作品に登場する名前、キャラクター、場所、出来事は、著者または作画者の想像による産物または架空のものです。実在する人物（存命中または故人）、出来事、団体、場所に類似するいかなる描写も、風刺的な意図はなく、偶然によるものです。

Blizzard Entertainmentは著者や第三者のウェブサイトもしくはそのコンテンツを管理しておらず、またそれらについて一切の責任を負いません。

進歩

「音声記録開始。『プロジェクト・キマイラ』実験番号74-B。

グランド・メサからの収穫は、まずもって満足のいくものだ。かつて強化兵計画のために作られた強化剤、その純度は予想を上回っていた。ノートン博士の研究はすでに高い完成度を誇っていたにもかかわらず、無駄な倫理観がブレーキをかけていたらしい。まったく嘆かわしい……理論の限界に挑むことなく日和見など、歩みを止めるに等しいというのに。彼女の成果がこうして我が手に収まったことは、不幸中の幸いと言えるだろう。

現在、強化剤の基幹設計を手元のレトロウイルス・ベクターに統合している。ヴェンデッタが求めているのは、兵と彼女自身のために安定した大量生産が可能な強化剤。これを投与された者は筋力、瞬発力、認識力が向上し、そのための代謝負荷も必要としない。無論、リスクはある。彼女は父親に似て貪欲だが、忍耐力は受け継いでいないようだ。厳密に言えば、この私も彼の死と一家の没落に関与した身……引き金を引いたのは私ではないが、本来ならば復讐の対象となってしかるべきだ。にもかかわらず、ヴェンデッタは研究に出資をしてくれている。止めどない野心が過去の恨みつらみを押さえ込んで





いるらしい。

ドゥームフィストの失脚とヴェンデッタの台頭……それらは私の研究にとって欄外の脚注にすぎない。アカンデ唯一の美点は、研究の邪魔をしないところだった。我が新たなパトロンが同等の自由を認めるつもりかどうかはまだわからないが、いずれにしろ、やるべき事は変わらない。

安定性——強化兵計画においても、私の過去の施術においても、常にそれが課題だった。レイエスに施した細胞再生術は歴史的な進歩だ。肉体を絶え間なく自己修復させ、純粋な生体能力のみで死を欺く……なんと美しく、惨たらしいことか。しかし、それに伴う変質は……非常に不安定だった。一時的な平衡を保とうとする体組織、そしてそれ以上に、肉体が自らを引き裂く様子から多くの学びを得た。強化兵士であるレイエスで実験をしたことで、最終結果から逆算して取り組む必要性が生まれたのだ。オリジナルの製剤が手に入った今、より優れた素体を用意できる。

少し話がそれた。ベクターが強化剤のタンパク質マーカーに反応しない。想定内だが、やはり面倒な問題だ。結合剤で強制的に結合させる……これでいい。

進歩に代償はつきものなのだろう。ヴェンデッタが強化剤を強奪したことに別段思うところはないが、このところ二度、私自身の研究が後退を余儀なくされている。最初はルナサピ……侵入者によって、太陽神の戦士が体に持つ太陽の燃糸に関するデータが大量に消された。そしてオアシスの研究所から、ヘリックスと敵対している地下組織フリークスなる連中にバナジウム同位体が盗まれた。とはいえ、道具が失われたことは知識の喪失を意味しない。結合の失敗も、破局反応も……すべてデータにすぎない。あれらを失ったことで、より効率的な抽出法を開発せざるを得なくなり——結果、強化剤の特性を被験体の染色体テロメアに直接結合させることが可能となった。災いを転じて福となす……ある意味、彼らのおかげと言えよう。

結合が完了した。異常な発熱反応はない。急速な結晶化も見られない。まさに完璧、かつ柔軟性も備えている。この製剤を用いれば、ヴェンデッタもその兵も比類なき力を手に入れる——と彼女は説明するのだろうが、その力もたらすものを手にするのはただ一人。玉座に取り憑かれた者の典型的行動だ。だが、かまわない。この強化剤による遺伝子組み換えは、いずれ……発展的応用への道を開く。強化兵など入り口にすぎない。

科学の進歩が止まることはない。失敗作が生まれようと、同位体が盗まれ

ようと、支配者が入れ替わろうと、止まるものか。進歩とは大いなる流れであり、私だけがその先を見ている。

「サンプルの第1相試験を開始する」



